

田中登教授 略年譜

昭和二十四年（一九四九）

十二月六日、豊橋市 [redacted] に生まれる。父は清、母は八千代。

昭和三十一年（一九五六）

四月、豊橋市立八町小学校に入学。

昭和三十七年（一九六二）

三月、八町小学校を卒業。

四月、豊橋市立豊城中学校に入学

昭和四十年（一九六五）

三月、豊城中学校を卒業。

四月、愛知県立時習館高等学校に入学。

昭和四十三年（一九六八）

三月、時習館高等学校を卒業。

四月、愛知大学文学部史学科日本史専攻に入学。

昭和四十五年（一九七〇）

四月、文学部文学科国文学専攻に転入。

昭和四十七年（一九七二）

三月、愛知大学文学部文学科国文学専攻を卒業。

四月、名古屋大学大学院文学研究科修士課程国文学専攻に入学。

昭和四十九年（一九七四）

三月、名古屋大学大学院文学研究科修士課程国文学専攻を修了。

四月、名古屋大学大学院文学研究科博士課程国文学専攻に進学。

昭和五十二年（一九七七）

三月、名古屋大学大学院文学研究科博士課程国文学専攻の単位

修得退学。

四月、帝塚山短期大学文芸科専任講師となる。

奈良市

[redacted] に転居。

昭和五十四年（一九七九）

三月二六日、泰子（星野正の三女）と結婚する。

奈良市

に転居。

昭和五十五年（一九八〇）

四月、帝塚山短期大学助教となる。

十一月二一日、長男薫誕生。

昭和五十六年（一九八一）

四月、国文学研究資料館文献調査委員となる（昭和五十八年三月まで）。

三月まで）。

六月、中古文学会常任委員となる（昭和五十八年五月まで）。

昭和五十七年（一九八二）

九月四日、二男茂誕生。

昭和五十八年（一九八三）

四月、奈良大学非常勤講師となる（平成二年三月まで）。

梅花女子大学非常勤講師となる（昭和六十年三月まで）。

昭和六十年（一九八五）

四月、愛知大学・同短期大学非常勤講師となる（昭和六十一年三月まで）。

三月まで）。

国文学研究資料館文献調査委員となる（昭和六十二年三月まで）。

三月まで）。

昭和六十一年（一九八六）

四月、京都女子大学・同短期大学非常勤講師となる（昭和六十二年三月まで）。

六十二年三月まで）。

八月、生駒市

に転居。

昭和六十二年（一九八七）

三月、第四回村尾育英会学術奨励賞を受賞。

四月、光華女子大学非常勤講師となる（昭和六十三年三月まで）。

六月、中古文学会委員となる（平成九年五月まで）。

昭和六十三年（一九八八）

一月一八日、三男敏誕生。

十一月、和歌文学会委員となる（平成十六年一月まで）。

平成元年（一九八九）

四月、花園大学非常勤講師となる（平成六年三月まで）。

平成二年（一九九〇）

四月、帝塚山短期大学教授となる。

京都女子大学非常勤講師となる（平成四年三月まで）。

平成三年（一九九一）

十二月、香川大学非常勤講師となる（集中講義）。

平成五年（一九九三）

四月、光華女子大学非常勤講師となる（平成九年三月まで）。

十月、甲南女子大学非常勤講師となる（平成七年三月まで）。

平成六年（一九九四）

四月、京都女子大学非常勤講師となる（平成七年三月まで）。

平成七年（一九九五）

四月、帝塚山大学非常勤講師となる（平成七年九月まで）。

平成八年（一九九六）

三月、帝塚山短期大学を退職する。

四月、関西大学文学部教授となる。

帝塚山短期大学非常勤講師となる（平成十一年三月まで）。

平成九年（一九九七）

四月、京都女子大学非常勤講師となる（平成十年三月まで）。

八月、新潟大学非常勤講師となる（集中講義。平成十三年まで）。

平成十年（一九九八）

三月、関西大学より博士（文学）の学位を取得する。

五月、関西大学組合書記長となる（平成十一年四月まで）。

平成十一年（一九九九）

四月、関西大学国内研究員となる（平成十二年三月まで）。

関西大学邦楽部顧問となる（平成二十年三月まで）。

六月、中古文学会委員となる（平成十三年五月まで）。

平成十二年（二〇〇〇）

四月、甲南女子大学非常勤講師となる（平成十六年三月まで）。

京都女子大学非常勤講師となる（平成十六年三月まで）。

国文学研究資料館文献資料収集計画委員となる（平成十四年三月まで）。

十四年三月まで）。

十月、関西大学文学部学生相談主事となる（平成十四年九月ま

で）。

平成十三年（二〇〇一）

四月、京都女子大学大学院非常勤講師となる（平成十六年三月

まで）。

光華女子大学非常勤講師となる（平成十六年三月まで）。

六月、中古文学会常任委員となる（平成十五年五月まで）。

平成十四年（二〇〇二）

六月、大和文華館評議員となる。

平成十五年（二〇〇三）

六月、中古文学会委員となる。

十月、関西大学図書館長となる（平成十九年九月まで）。

平成十六年（二〇〇四）

十一月、和歌文学会常任委員となる（平成二十七年十月まで）。

平成十七年（二〇〇五）

四月、京都女子大学・同大学院非常勤講師となる（平成十八年

三月まで。

平成十八年（二〇〇六）

五月、関西大学為春会幹事となる（平成十九年四月まで）。

六月、関西大学協議会協議員となる（平成二十年九月まで）。

平成十九年（二〇〇七）

四月、京都女子大学非常勤講師となる（平成二十年三月まで）。

十二月、吹田市立図書館協議会会長となる（平成二十一年十一月まで）。

平成二十一年（二〇〇九）

四月、京都女子大学・同大学院非常勤講師となる（平成二十八年三月まで）。

平成二十五年（二〇一三）

四月、春日井市道風記念館顧問となる。

平成二十七年（二〇一五）

十月、和歌文学会委員となる。

平成二十九年（二〇一七）

三月、関西大学名誉教授となる。

四月、関西大学特別契約教授となる。

田中登教授 著述目録

昭和四十八年（一九七三）

『御所本貫之集』の本文的価値

名古屋大学「国語国文学」三二号 五月

昭和五十年（一九七五）

『御所本貫之集』続考 名古屋大学「国語国文学」三六号 七月

『為氏本貫之集』本文考 「平安文学研究」五四輯 十一月

昭和五十一年（一九七六）

書陵部蔵『元輔集』の卷末歌群について

―特に『貫之集』との共通歌をめぐって―

「平安文学研究」五五輯 六月

昭和五十二年（一九七七）

『伝行成筆貫之集切』考 「青須我波良」一四号 五月

他撰本貫之集の再検討 「青須我波良」一五号 十一月

昭和五十三年（一九七八）

私家集の増補・混入について（上）

「帝塚山短期大学紀要」一五号 三月

『貫之集類題』について 「青須我波良」一六号 五月

貫之集の本文校訂―歌仙本卷四の場合―

「平安文学研究」六〇輯 十一月

昭和五十四年（一九七九）

私家集の増補・混入について（中）

「帝塚山短期大学紀要」一六号 三月

香川景樹の『貫之集』研究

―国文学研究資料館蔵『貫之集注』にふれながら―

「青須我波良」一八号 五月

『貫之集』本文校訂上の問題点

―諸本間の歌の出入りを中心に―

『国語国文学論集』笠間書院 十一月

昭和五十五年（一九八〇）

翻刻『貫之集注 桂園翁 全』

「帝塚山短期大学紀要」一七号 三月

屏風歌研究序説―香川景樹の屏風歌観の検討を中心に―

愛知大学「国文学」二〇号 三月

森谷時雨校合（定家真筆本系）猿丸大夫集について

―付・校異― 「青須我波良」二〇号 五月

古今六帖の貫之歌 「平安文学研究」六三輯 七月

昭和五十六年（一九八一）

私家集の増補・混入について（下）

「帝塚山短期大学紀要」一八号 一月

古筆切雑感 「京古本や往来」一二号 四月

土佐日記 「王朝日記選」和泉書院 四月

三代集の貫之歌―貫之集試論―

『三代集の研究』明治書院 五月

実兼集の古筆断簡 「青須我波良」二二号 六月

新刊紹介 後藤重郎・杉戸千洋『金葉集研究基礎資料稿』

名古屋大学「国語国文学」四九号 十二月

昭和五十七年（一九八二）

私家集古筆切覚書―中世期書写のものを中心に―

「帝塚山短期大学紀要」一九号 一月

堯孝日記伝本攷―架蔵本の紹介とその検討―

「青須我波良」二四号 六月

昭和五十八年（一九八三）

古筆切三種―定家筆高光集切・広沢切・吉野切―

「青須我波良」二六号 七月

昭和五十九年（一九八四）

中古前期 『和歌文学選』和泉書院 四月

貫之集恋歌考―古今・後撰両集に関連して―

『国語国文学論集』名古屋大学出版会 四月

拾玉集以前の慈円家集 「青須我波良」二七号 六月

資料紹介 二八明題和歌集の古写断簡

「青須我波良」二七号 六月

昭和六十年（一九八五）

『国文学古筆切入門』共著 和泉書院 二月

『練玉和歌抄』 和泉書院 二月

平安私家集古筆切一覽稿

愛知大学「国文学」二四・二五合併号 三月

三代集の世界

『和歌史』和泉書院 四月

貫之集

『新編国歌大観』第三卷 角川書店 五月

『古今集』貫之歌と『貫之集』

竹取物語古写断簡攷
古筆切二題

『青須我波良』三三三号 六月
『中古文学』四〇号 十一月

『講座平安文学論究』第二輯 風間書房 五月

影印『冷泉為純百首』

『青須我波良』二九号 六月

『上野山福祥寺須磨寺―歴史と文学』ジュンク堂書店 十二月
資料紹介 香紙切麗花集二葉 『青須我波良』三四号 十二月

新刊紹介 伊井春樹・高田信敬『古筆切提要』

名古屋大学『国語国文学』五六号 七月

昭和六十三年（一九八八）

題林愚抄 『新編国歌大観』第六卷 角川書店 四月

昭和六十一年（一九八六）

翻刻『堯孝日記』 『青須我波良』三五号 六月

新出寝覚物語絵詞断簡の意義

『中古文学』三七号 六月

遍照・素性と石上 ほか 『奈良と文学』和泉書院 七月

光台院五十首と北野宝前和歌の古写断簡

『青須我波良』三二号 六月

八代集部類抄から二八明題集へ―付、二八要抄の古写断簡―
ジュンク堂 八月

能因 ほか 『別冊国文学』

古典和歌必携』学燈社 七月

『講座平安文学論究』第五輯 風間書房 十月

『貫之集』から排除されたもの

―『土佐日記』所収歌をめぐって

右近「わすらるる」詠 ほか『日本名歌集成』学燈社 十一月

―『土佐日記』所収歌をめぐって

学燈社『国文学』十一月号 十一月

『国語国文学論集』右文書院 十一月

散逸「衣笠家良集」について―伝定家筆五首切の検討―

昭和六十二年（一九八七）

『青須我波良』三六号 十二月

『校訂貫之集』

和泉書院 二月

平成元年（一九八九）

滋春―古今和歌集の歌人たち

『一冊の講座 古今和歌集』有精堂 三月

私の東京古典会 『京古本や往来』四三三号 一月

『一冊の講座 古今和歌集』有精堂 三月

国文学資料としての古筆切 徳川黎明会叢書「月報」7 三月

中世私撰集古筆切三種―拾葉・続現葉・松花の各断簡―

貫之集 『新編国歌大観』第七卷 角川書店 四月

『統国文学古筆切入門』 共著

和泉書院 四月

平成四年（一九九二）

別本宗尊親王御集について

「和歌文学研究」五八号 四月

関西例会の十五年―私的回想

新出の病草子詞書断簡について

「汲古」一五号 六月

「和歌文学会関西例会 五十回のあゆみ」 一月

資料紹介 伝西行筆升型本曾丹集切

「青須我波良」三七号 六月

古筆切と和歌―私家集を中心に

『王朝私家集の成立と展開』 風間書房 一月

平成二年（一九九〇）

新出の竹取物語古写断簡

「汲古」一六号 二月

北野宝前和歌 ほか『新編国歌大観 第十卷』 角川書店 四月

『平安詩歌選』 共編

和泉書院 四月

『続々国文学古筆切入門』 共著 和泉書院 五月

写本系『新明題和歌集』について

「和歌文学研究」六〇号 四月

千載集歌人藤原公時について―家集断簡の紹介をかてて―
「青須我波良」四三号 六月

資料紹介 藤葉集の古写断簡

「青須我波良」三九号 六月

「中古文学」五〇号 十一月

伝伏見天皇宸筆宗尊親王御集について

「青須我波良」四〇号 十一月

平成五年（一九九三）

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集二』 共編 朝日新聞社 二月

平成三年（一九九一）

玉藻切金葉集の性格

「汲古」一九号 六月

国語国文学界の展望 中古・新資料

「文学・語学」一三七号 三月

書誌学の基礎知識

「別冊国文学 古典文学基礎知識必携」学燈社 七月

逆瀬家藏古筆切九種―香紙切・今城切など―

「青須我波良」四五号 六月

資料紹介 伝宗尊親王筆如意宝集切

「青須我波良」四二号 十二月

慈円の新出歌

断簡を探し求めて（一）～（二一）

「汲古」二三号 七月

新勅撰集の切出歌

「汲古」二〇号 十二月

「小さな蕾」二月～十二月号 二月～十二月

平成六年（一九九四）

新刊紹介 猪股静弥『小倉百人一首』 「解釈」三月号 三月
古今集歌人の歌枕表現

『歌枕を学ぶ人のために』世界思想社 三月
古筆研究の現段階 「帝塚山芸術文化」一号 三月

『古今・新古今の秀歌100選』 偕成社 五月

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集二』共編 朝日新聞社 六月
光台院五十首における歌人排列の問題点

―古筆切を手がかりに― 「青須我波良」四七号 六月
埋もれた歌集を掘り起こす―散逸私撰集と古筆切―

「水荃」一七号 十月
紀貫之 ほか 『歴史人物事典』朝日新聞社 十一月

私家集古筆七種―芝山切・御文庫切など―

「青須我波良」四八号 十二月
断簡を探し求めて（二二）～（二三）

「小さな蕾」一月～十二月号 一月～十二月
平成七年（一九九五）

万葉集注釈書の古写断簡 「青須我波良」四九号 七月

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集三』共編 朝日新聞社 八月
古筆切の本文的意義 学燈社「国文学」八月号 八月

中世における物語和歌享受の二様相

―付、伝二条為明筆曆切について―

『古筆学のあゆみ』八木書店 十二月
断簡を探し求めて（二四）～（三五）

「小さな蕾」一月～十二月号 一月～十二月
平成八年（一九九六）

奥書・識語をめぐる諸問題

国文学研究資料館「調査研究報告」一七号 三月
あとがき 『古典文学に見る吉野』和泉書院 四月

『小松茂美著作集』 「週刊読書人」二一九二号 四月
新出の『夜半の寢覚』末尾欠巻部断簡 「汲古」二九号 七月

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集四』共編 朝日新聞社 十二月
断簡を探し求めて（三六） 「小さな蕾」一月号 一月

季節は書と共に（二）～（七） 「小さな蕾」六月～十二月号 六月～十二月
書のある風景（一） 「水荃」二一号 十月

平成九年（一九九七）

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集五』共編 朝日新聞社 八月

中御門大納言集 ほか 『冷泉家の至宝展』NHK 八月
非定家本系後撰集の古筆切―中世期書写のものを中心に―

『和歌文学の伝統』角川書店 八月
新刊紹介 片桐洋一解題『古今序聞書』

関西大学「国文学」七六号 九月

『古筆切の国文学的研究』 風間書房 九月

『夜半の寢覚』末尾欠巻部追考―新出断簡を中心に―

『源氏物語と古代世界』新典社 十月

定家筆源氏物語和歌抜書 「むらさき」三四輯 十二月

坊門局の書写活動 『王朝和歌と史的展開』笠間書院 十二月

季節は書と共に(八)～(十九)

「小さな蕾」一月～十二月号 一月～十二月

書のある風景(二)～(三)

「水荃」二二号～二三号 三月～九月

平成十年(一九九八)

大伴黒主 ほか 『日本古典文学大事典』明治書院 六月

季節は書と共に(二十)～(三十)

「小さな蕾」一月～十二月号 一月～十二月

書のある風景(四)～(五)

「水荃」二四号～二五号 三月～十月

平成十一年(一九九九)

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集六』共編 朝日新聞社 二月

朝忠集 ほか 『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店 三月

『古筆名葉集』記事内容考 関西大学「国文学」七八号 三月

生駒山 ほか 『歌ことば歌枕大辞典』角川書店 五月

王朝和歌の世界―写本の魅力―

「関西大学図書館フォーラム」四号 六月

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集七』共編 朝日新聞社 十二月

季節は書と共に(三十一)～(三十六)

「小さな蕾」一月～六月号 一月～六月

書のある風景(六)～(七)

「水荃」二六号～二七号 三月～十月

平成十二年(二〇〇〇)

貫之集伝本研究の現段階 『和歌史論叢』和泉書院 二月

『平成新修古筆資料集 第一集』 思文閣出版 三月

書のある風景(八) 「水荃」二八号 三月

学界時評 中古 学燈社「国文学」四月号 四月

学界時評 中古 学燈社「国文学」十月号 十月

藤原俊成の私家集書写活動

関西大学「国文学」八一号 十一月

南都老人訪問記(二)～(三)

「小さな蕾」八月～十二月号 八月～十二月

平成十三年(二〇〇一)

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集八』共編 朝日新聞社 二月

小松古筆学、五十年の軌跡 「水荃」三〇号 三月

『夜寝覚拔書』の解説法 関西大学「国文学」八二号 三月

学界時評 中古 学燈社「国文学」四月号 四月

『小松茂美著作集』の完結に寄せて 「図書新聞」二三五〇号 四月

書評 小林強・高城弘一『古筆切研究 第一集』 「国学院雑誌」四月号 四月

学界時評 中古 学燈社「国文学」十月号 十月

国宝 寝覚物語絵巻 「小さな蕾」十一月号 十一月

非定家本系古今集の古筆切―鎌倉期のものを中心に―

『王朝文学の本質と変容(韻文編)』和泉書院 十一月

南都老人訪問記(四)〜(八) 「小さな蕾」二月〜十月号 二月〜十月

平成十四年(二〇〇二)

物語系古筆切三種―竹取・源氏絵詞・大鏡の各断簡―

関西大学「国文学」八三・八四合併号 一月

前口上 『平安文学五十年』和泉書院 二月

周防内侍集 ほか 『冷泉家の秘籍』朝日新聞社 三月

『寝覚物語欠巻部資料集成』共編 風間書房 三月

学界時評 中古 学燈社「国文学」四月号 四月

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集九』共編 朝日新聞社 四月

古筆切に見る女性の筆跡 『日本の歴史を彩った女性の書』読売新聞社 五月

冷泉家本私家集の重文指定に寄せて 「しぐれてい」八一号 七月

『冷泉家時雨亭叢書 承空本私家集上』共編 朝日新聞社 八月

小松茂美氏と古筆学 「鴨東通信」四七号 九月

学界時評 中古 学燈社「国文学」十月号 十月

『小松茂美 人と学問』 思文閣出版 十月

南都老人訪問記(九)〜(十五) 「小さな蕾」一月〜十二月号 一月〜十二月

平成十五年(二〇〇三)

『平成新修古筆資料集 第二集』 思文閣出版 一月

『元真集』伝本攷 『日本文芸論叢』和泉書院 三月

学界時評 中古 学燈社「国文学」四月号 四月

『とはずがたり』の新出古写断簡 「汲古」四三号 六月

冷泉家の古典籍と伝西行筆私家集類 「墨」九・十月号 十月

学界時評 中古 学燈社「国文学」十月号 十月

『夜半の寢覚』末尾欠巻部の内容

―近年出現した資料の位置づけを中心に―

「国語と国文学」十二月号 十二月

南都老人訪問記(十六) 〱(十八)

「小さな蕾」二月〱六月号 二月〱六月

平成十六年(二〇〇四)

伝後光厳院筆六半切は『寢覚』の断簡か

―付、伝冷泉為秀筆の夜の寢覚物語切について―

関西大学「国文学」八八号 二月

古今集の古筆切

『古今和歌集研究集成 第二巻』風間書房 二月

学界時評 中古 学燈社「国文学」四月号 四月

『平安文学研究ハンドブック』共編 和泉書院 五月

『夜半の寢覚』と『浜松中納言物語』の作者

『平安文学論究 第十八輯』風間書房 五月

大学図書館の使命 「関西大学図書館フォーラム」九号 六月

『京都冷泉家の八〇〇年 和歌編』共著 NHK出版 七月

素寂本貫之集の意義 関西大学「文学論集」五四巻一号 七月

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集十』共編 朝日新聞社 八月

平成になって知られた二つの古今集

―伝公任筆本と定家筆嘉禄本― 「墨」七・八月号 八月

『大東急記念文庫善本叢刊中古中世篇 手鑑』共著

汲古書院 八月

学界時評 中古 学燈社「国文学」十月号 十月

「のりきよがふで」再考―伝西行筆私家集類の筆跡分類―

関西大学「文学論集」五四巻二号 十月

古今和歌集の古写本―伝公任筆本と定家本との距離―

学燈社「国文学」十一月号 十一月

不世出の文献学者 久曾神昇博士の人と学問

『古今和歌集への道』思文閣出版 十二月

古筆研究の動向 愛知大学「国文学」四四号 十二月

源氏物語絵詞二題―絵巻物と古筆切― 「汲古」四六号 十二月

平成十七年(二〇〇五)

中世私撰集と古筆切 関西大学「国文学」八九号 二月

シンポジウム《古筆切研究の現在》に臨んで

『古筆への誘い』三弥井書店 三月

新刊紹介 久曾神昇『古今和歌集への道』

学燈社「国文学」四月号 四月

冷泉家が伝えた古典籍

- 『京都冷泉家の八百年』NHK出版 七月
古今集の古筆 『古今集の古筆』春日井市道風記念館 九月
藤原定家の書の周辺 『和歌が書かれる時』岩波書店 十二月
『冷泉家時雨亭叢書 擬定家本私家集』共編
朝日新聞社 十二月
- 平成十八年(二〇〇六)
『平成新修古筆資料集 第三集』 思文閣出版 一月
久曾神昇博士と古今集 『道風記念館だより』四〇号 三月
『冷泉家時雨亭叢書 承空本私家集中』共編 朝日新聞社 四月
物語古筆研究覚書 『平安文学の新研究』新典社 九月
源氏物語享受資料としての古筆切 『悠久』一〇五号 十月
『戦後和歌研究者列伝』共編 笠間書院 十一月
- 平成十九年(二〇〇七)
『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集十二』共編 朝日新聞社 二月
類聚歌苑の古写断簡 関西大学「国文学」九一号 三月
『冷泉家時雨亭叢書 承空本私家集下』共編 朝日新聞社 六月
紀貫之 『語り継ぐ日本の文化』青簡舎 八月
『山家集』と古筆切 『汲古』五二号 十二月
- 平成二十年(二〇〇八)
古筆学より見たる冷泉家所蔵本の意義
- 『古筆と和歌』笠間書院 一月
御子左家の書写工房と西行 『西行の仮名』出光美術館 二月
古筆学より見たる冷泉家所蔵本の意義(続)
関西大学「国文学」九二号 三月
- 『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集十二』共編 朝日新聞社 四月
『大東急記念文庫善本叢刊中古中世篇 和歌Ⅲ』共編 汲古書院 四月
源氏物語和歌作者目録の存在
関西大学「文学論集」五八巻一号 七月
- 『平成新修古筆資料集 第四集』 思文閣出版 九月
『新編私家集大成 CD-ROM版』共編
私流新書の楽しみ(二回) エムワイ企画 十二月
私流文庫の楽しみ(二回) 『書評』一二九～一三〇号 四月～十月
『書評』一二九～一三〇号 四月～十月
- 平成二十一年(二〇〇九)
『冷泉家時雨亭叢書 古筆切・拾遺(二)』共編 朝日新聞社 二月
『王朝びとの恋うた』 笠間書院 三月
- 伝二条為明筆六半切拾遺集の性格

関西大学「国文学」九三三号 三月

伝藤原為家筆『源氏物語』薄雲巻断簡の紹介

実践女子大学文芸資料研究所「年報」二八号 三月

王朝文化を今に伝える古筆切

「鴨東通信」七四号 六月

撰集資料としての私家集

「しぐれてい」一〇九号 七月

現存六帖・松花・松吟の断簡

関西大学「文学論集」五九卷一号 七月

『夜半の寝覚』欠巻部資料覚書

『平安後期物語の新研究』新典社 十月

『源氏集』の種々相

『源氏物語の展望 第六輯』三弥井書店 十月

私家集

『冷泉家 王朝の和歌守展』朝日新聞社 十一月

異本資料としての古筆切―三代集を例に―

『平安文学史論考』武蔵野書院 十二月

『関西例会一〇〇回の歩みと和歌文学研究の動向』共著

和泉書院 十二月

私流新書の楽しみ (二回)

『書評』一三二号～一三三二号 四月～十月

私流文庫の楽しみ (二回)

『書評』一三二号～一三三二号 四月～十月

平成二十二年 (二〇一〇)

あとがき 『古筆切影印解説Ⅳ十三代集編』風間書房 一月

古筆切の発生と源氏物語

実践女子大学文芸資料研究所「年報」二九号 三月

『失われた書を求めて―私の古筆収集物語』

青簡舎 四月

『伊勢物語』と古筆切

『伊勢物語 享受と展開』竹林舎 五月

俊成・定家の書

『兵庫県作家協会会報』五九号 八月

世尊寺家三代の書写活動

『世尊寺流の書』春日井市道風記念館 九月

『平成新修古筆資料集 第五集』

思文閣出版 九月

座談会 古筆研究の現在

「レポート笠間」五一号 十一月

私流新書の楽しみ (二回)

『書評』一三三三号～一三四四号 四月～十月

私流文庫の楽しみ (二回)

『書評』一三三三号～一三四四号 四月～十月

平成二十三年 (二〇一一)

『コレクション日本歌人選 紀貫之』

笠間書院 二月

今こそ貫之の復権を

『週刊読書人』二八八号 二月

世尊寺家三代の書写活動

『道風記念館だより』四五号 三月

『季節は書と共に―短冊の楽しみ』

青簡舎 三月

座談会黒川文庫の過去・現在・未来

実践女子大学文芸資料研究所「年報」三〇号 三月

源氏物語関係古筆切三種

実践女子大学文芸資料研究所「年報」三〇号 三月

古筆収集の思い出 「思文閣古書資料目録」二二三号 七月

私流新書の楽しみ (二回)

「書評」一三五号〜一三六号 四月〜十月

私流文庫の楽しみ (二回)

「書評」一三五号〜一三六号 四月〜十月

平成二十四年 (二〇一二)

『続季節は書と共に―短冊の楽しみ』 青簡舎 一月

『平成新修古筆資料集』補訂稿

関西大学「国文学」九六号 三月

三十六歌仙の成立とその展開

『語り継ぐ日本の歴史と文学』青簡舎 八月

私流新書の楽しみ (二回)

「書評」一三七号〜一三八号 四月〜十月

私流文庫の楽しみ (二回)

「書評」一三七号〜一三八号 四月〜十月

平成二十五年 (二〇一三)

『続々季節は書と共に―短冊の楽しみ』 青簡舎 二月

無類の本好き 藤井隆先生

『私のあゆんだ道』和泉書院 十二月

私流新書の楽しみ (一回) 「書評」一三九号 四月

私流文庫の楽しみ (一回) 「書評」一三九号 四月

平成二十六年 (二〇一四)

古筆研究の現況

関西大学東西学術研究所「研究報告書」日本文学芸能班 三月

冷泉家本と古筆切

『王朝文学の古筆切を考える』武蔵野書院 五月

清水好子、その豊饒な王朝文学の世界

『清水好子論文集 第三巻』武蔵野書院 九月

はじめに 『歌びと達の競演』青簡舎 九月

数々の貴重書

『関西大学創設100周年記念誌』関西大学図書館 十月

秋萩集ほか 『和歌文学大辞典』古典ライブラリー 十二月

平成二十七年 (二〇一五)

『冷泉家時雨亭叢書 擬定家本私家集続』共編

朝日新聞社 二月

『古筆の楽しみ』

武蔵野書院 二月

古筆切の発生とその鑑賞

実践女子大学文芸資料研究所「年報」三四号 三月

『冷泉家時雨亭叢書 平安私家集十三・擬定家本私家集続々』

共編 朝日新聞社 四月

古筆の筆者 『八代集の古筆』春日井市道風記念館 九月

万葉集と古筆切 『上代文学』一一五号 十一月

平成二十八年(二〇一六)

国文学(中古)―関大中古文学研究者の水脈―

関西大学「国文学」一〇〇号 三月

八代集の古筆切 『道風記念館だより』五〇号 三月

『冷泉家時雨亭叢書 古今和歌集時絵小箱三代集本』共編

朝日新聞社 八月

古筆切の価値 『日本書道文化の伝統と継承』求龍堂 十月

平成二十九年(二〇一七)

新たに知られた小式部内侍本伊勢物語の断簡

関西大学「国文学」一〇一号 三月

『続古筆の楽しみ』 武蔵野書院 四月

『私が出会った人と本』 青簡社 五月

『冷泉家時雨亭叢書 君臣僧俗詠歌 短冊手鑑』共編

座談会 冷泉家時雨亭叢書完結の意義

朝日新聞社 六月

『しくれてい』第一四二号 十月

中古文学研究と古筆資料 『中古文学』一〇〇号 十一月

平成三十年(二〇一八) 伝慈円筆『寢覚物語』切の出現―「斎宮」再考―

関西大学「国文学」一〇二号 三月

平成三十一年(二〇一九)

物語類題和歌集の存在―伝二条為忠筆四半切の紹介と検討―

関西大学「国文学」一〇三号 三月

※以下の出版物の編集委員を務めた。

『新編私家集大成CD・ROM版』(エムワイ企画)

『コレクション日本歌人選』第一期〜第三期(笠間書院)

『冷泉家時雨亭叢書』第八期(朝日新聞社)